日本语言文化研究

第六辑

宋协毅　林乐常　主编

大连理工大学出版社

大连大学日本语言文化研究中心策划

日本语言文化研究

第六辑

主　编：宋协毅　林乐常
副主编：周　扬　佟利功　金春梅　张晨曦
仇云波　王　鹏　姚海峰

顾　问：王志强　潘成胜　修　刚　宿久高
徐一平　王　勇　伊井春樹［日］
伊东祐郎［日］　沼田善子［日］
崔光准　［韩］　马越雪夫［日］

大连理工大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

日本语言文化研究. 第六辑 / 宋协毅，林乐常主编
. — 大连 ：大连理工大学出版社，2017.11
ISBN 978-7-5685-1059-2

Ⅰ. ①日… Ⅱ. ①宋… ②林… Ⅲ. ①日语—语言学
—文集 Ⅳ. ①H36-53

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2017)第 202326 号

大连理工大学出版社出版
地址：大连市软件园路 80 号　邮政编码：116023
发行：0411-84708842　邮购：0411-84708943　传真：0411-84701466
E-mail：dutp@dutp.cn　URL：http://dutp.dlut.edu.cn
大连金华光彩色印刷有限公司印刷　　大连理工大学出版社发行

幅面尺寸：170mm×238mm　　印张：38.5　　字数：943 千字
2017 年 11 月第 1 版　　2017 年 11 月第 1 次印刷

责任编辑：张　凡　　责任校对：任向欣　毕崇智　刘晓颖
姜一凡　徐宝展　邵光悦
封面设计：董振巍

ISBN 978-7-5685-1059-2　　定　价：80.00 元

本书如有印装质量问题，请与我社发行部联系更换。

序

2016年9月24、25日，由大连大学主办，日本语言文化学院承办的“大连大学第七届中日韩日本语言文化研究国际研讨会”在大连大学日本语言文化学院同声传译教学和国际会议大厅隆重举行。

本次大会得到了大连市人民政府外事办公室、日本国驻沈阳总领事馆驻在官事务所、中国日语教学研究会、日本日语教育学会、韩国日语日文学会、筑波大学、新罗大学、九州外国语学院、浙江工商大学东亚研究所、广岛县华侨华人总会、日本全国经理教育协会、日本青少年国际文化交流实行委员会、外语教学与研究出版社、大连理工大学出版社、华东理工大学出版社、大连市西岗区日韩饮食文化协会、卡西欧上海贸易有限公司、佳能大连办公设备有限公司、株式会社花园公司、苏州科达科技股份有限公司等有关方面的大力支持和协助。来自日本名古屋大学、东北大学、九州大学、筑波大学、广岛大学、神户大学、早稻田大学、法政大学、东京外国语大学、县立广岛大学、大东文化大学、东京工艺大学、静冈大学及韩国新罗大学等日韩两国著名学府的50多名专家教授及青年学者，以及来自中国北京大学、浙江大学、同济大学、华中科技大学、大连理工大学、广东外语外贸大学、四川外国语大学、大连外国语大学、北京语言大学、东北师范大学、大连海事大学、江苏大学、湖北大学、延边大学、中国医科大学、沈阳航空航天大学、青岛农业大学、大连民族大学、上海师范大学、南京理工大学、大连交通大学、南通大学、温州大学、西华大学、江汉大学等国内院校的130多名专家教授、青年学者及大连大学校日语学院500多名本科生和研究生等参加了本次大会。

中日韩三国政府相关部门代表、学界代表以及赞助单位代表出席了本次大会的开幕式，包括大连市人民政府外事办公室于涛主任，日本国驻沈阳总领事馆驻在官事务所平川智雄所长，中国日语教学研究会名誉会长、吉林大学外国语学院前院长宿久高先生，中国日语教学研究会名誉会长、北京日本学研究中心前主任徐一平教授，中国日语教学研究会会长、吉林大学外国语学院院长周异夫教授，中国日本史学会副会长、浙

江工商大学东亚研究院院长、浙江大学人文学院王勇教授，中国日语教学研究会副会长、华中师范大学外国语学院副院长李俄宪教授，日本日语教育学会会长、东京外国语大学伊藤祐郎教授，韩国日语日文学会前会长、新罗大学崔光准教授，日本国学资料馆前馆长、逸翁美术馆馆长伊井春树先生，九州大学前校长、福冈女子大学理事长、校长梶山千里教授，日本国际民俗学会代表、名古屋大学樱井龙彦教授，筑波大学日语教育学会会长矢泽真人教授，筑波大学人文社会科学研究科沼田善子教授，广岛县华侨华人总会会长、广岛大学卢涛教授，广岛大学研究企划副理事高谷纪夫教授，日本内阁府经济社会综合研究所主任客员研究官、横滨国立大学小池治教授，日本公益社团法人全国经理教育协会理事长中岛利郎先生，佳能大连办公设备有限公司董事长金子惠一先生，日本卡西欧（上海）有限公司岩丸阳一副总经理，日本横滨市律师协会国际交流委员会委员长高冈俊之先生，青少年国际文化交流实行委员会副会长宇都贵博先生，日本九州外国语学院理事长马越雪夫先生等。

教育部日语教学指导分委员会主任、中国日语教学研究会名誉会长、天津外国语大学校长修刚先生为大会的召开发来了贺电。

本次大会邀请了宿久高先生、徐一平先生、伊藤祐郎先生、伊井春树先生、崔光准先生等中日韩三国9位著名专家学者就日本语言学、日语教学与人才培养、日本文学、日本文化、翻译与口译等专题举行了主旨演讲，同时还邀请了中日韩三国的11位著名专家学者举行了日本语言文学以及社会历史文化等方面的特别演讲和专题讲座。会议期间还邀请广岛大学博士生及筑波大学教授与我校日语研究生进行了学术交流。中日韩三国日语教育学会会长还与全体与会代表一起举行了世界著名日语教育专家、日本国日本语教育学会前会长水谷修先生追思会。日本法政大学、新泻事业创造大学院大学、九州外国语学院等举办了留学说明会。

9月24日晚，与会代表参加了“大连大学第十一届中日韩饮食文化节”，品尝了中日韩三国的美食，观看了大连大学“第四届九外杯日语演讲比赛”决赛以及“第十二届外文歌曲卡拉OK大赛”决赛，欣赏了法政大学增渊教授带领的团队指导日本语言文化学院的10名学生共同奉献的的日本饭团制作与品评会，以及日本语言文化学院100名学生表演的院旗、院徽、院训展示和院歌大合唱，我校韩国留学生表演的韩国流行歌曲以及专程从日本赶来参会的日本青少年文化交流协会组织的专业电子大鼓、电子吉他与书法的表演给与会者带来了日韩文化盛宴，我校音乐学院青年歌唱家杨福生老师的优美歌声也征服了全场观众。最后，由日本语言文化学院学生表演的旨在促进东亚和平的

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

“和平与爱”主题舞蹈，为文化节画上了圆满的句号。

两天会期当中，100多名与会代表分为9个小组就日本语言学、日语教学与人才培养、日本文学与史学、日本文化与交际、翻译与口译等专题进行了论文发表。本次大会充满了学术研究与实践教学研究相结合的求实氛围，反映了国内外对培养具有高水平日语应用型人才的热切期望。会后，由7名留日博士等组成的论文审查组经过严格审查，从在大会上发表并提交的100多篇论文中，精选了86篇，汇成了本书。

本次大会是一次具有重要国际影响力的学术会议，为集中日韩三国专家学者之力，进一步探讨培养新世纪日语人才之路及开展三国之间实质性的语言文化交流做出了巨大的贡献，使大连大学日本语言文化研究和日语人才培养的核心竞争力又迈上了一个新的台阶。2003年成立后历经14年风雨而不断成长壮大的大连大学日本语言文化学院，也将不忘初心，继续艰苦奋斗，在中日韩三国专家学者、同行的鼎力支持和全体师生的共同努力下，全院上下决心在今后的道路上精诚团结、谦虚谨慎、凝心聚力、再创辉煌！

大　连　大　学　副校长
教育部日语教学指导分委员会　委　员
中国日语教学研究会　副会长

宋协毅

识于金州大黑山下

2017年2月吉日

目录

基調講演編

● 源氏物語の国際化への歩み
—中国語・韓国語訳を中心に— 伊井春樹 2

● 翻译中的语言问题和文化问题 徐一平 7

日本語学編

● 日本語の指示詞「この」「その」「あの」の選択
—画面の中の人物の場合— 杉村泰 18

● 「解説」は「述べる」ものなのか
—コロケーションの正否の判断をめぐって— 李東哲 徐瑛 24

● コーパスに基づく新聞記事の批判的談話分析 孫成志 31

● 日本語教育のためのオノマトペの語彙選定 曹金波 39

● 日本語オノマトペの意味拡張に関する考察
—反義関係にある「あっさり」と「こってり」を例にして— 陳帥 48

● 日本人学生と社会人の出会いあいさつ使用に関する一考察
—ポライトネスの観点から— 丁尚虎 55

● 「自慢」はどのように継続されるのか
—語り手の期待と聞き手の反応の観点から— 釜田友里江 61

- 物事を決める話し合いにおけるやりとりの展開
  —不同意表明が行われたやりとりに注目して— 金桂英 69
- 中国語におけるフィラー“这个”の使用法に関する考察
  —日本語におけるフィラー「その（一）」と比較対照して— 陳海涛 75
- 異文化視角における外来語と原語との意味的な比較 徐暖 82
- テレビドラマにおける日本語慰労表現の実証的研究 于亮 邹善军 88
- 北京・天津方言話者の会話における相づちの一分析
  —日本語会話における相づちとの比較研究から— 羅希 96
- 「人家」のポライトネス機能 任暁雪 104
- 中国語を母語とする日本語学習者によるアクセントの知覚
  —学習歴とアクセント知識の影響による検討— 王睿来 林良子 磯村一弘 110
- 中国語と日本語の恩恵表現の比較研究 佟利功 117
- 「捉え方」に関する一考察 黄婧 周揚 124
- 「は」と「が」についての指導法
  —初級学習者の誤用文の分析から— 趙萍 133
- 「てしまう」表現の中国語訳について
  —『ノルウェイの森』の日中バージョンを通して— 李媛媛 138
- 話し言葉における「でも」の使用実態の一考察
  —『女性のことば・職場編』『男性のことば・職場編』をもとに— 王琪 146
- 自他動詞研究についての方法論 張璐璐 李璠 154
- テレビドラマから見られる終助詞の性差 趙秀雲 劉玉琴 時春慧 160
- 日本語会話における接続助詞「たら」節における述語省略表現の考察 杜暁傑 167
- 接尾辞「-化」についての研究 李夢迪 173
- 母語影響による日本語可能態の誤用
  —中国人日本語学習者のアンケート調査から— 凌智慧 179
- ポライトネスから見る「ちょっと」の対人的機能 曲岩松 186
- 勧誘行動におけるあたかも依頼表現についての考察 何芳 194

日本語教育編

- 「大学における教育内容等の改革状況について」の分析　鄭爽　蔡全勝　202
- 「総合日本語」の授業における持続可能性
  —日本語教育の実践—　穆紅　小田珠生　211
- アドラー心理学による学習者本位の授業の構築　徐義紅　216
- 若者言葉における「超～」の中日比較　鄧潔　孫蓮花　222
- 中国人日本語学習者の多義語に対する意味理解
  —多義動詞「とる」を中心に—　黄文瀾　229
- TBLT を取り入れた基礎日本語教育の試み　徐蕾　238
- 「怒り」の 6 段活用から見た言語文化　牟海涛　244
- 中国の社会人学習者の初級段階における日本語学習動機づけ
  —L2 動機づけ自己システムの観点から—　王軼群　249
- 上級日本語学習者における母語干渉による誤用
  —心理表現を中心に—　李芳　李潔　牟海晶　256
- MI 理論に基づく外国語学習リソースと授業の統合　李暁霞　劉晶　260
- 北京第二外国語学院にいってきた
  —特別授業を中心に—　徐輝　265
- 形成的評価における Can-do Statements 自己評価の試み　方圓　271
- 内容依存式による思弁能力の育成パターンの試み
  —「高級日本語」授業を例として—　孫英　277

日本文学・日本史学編

- 『源氏物語』にみる中国文化の受容
  —桐と桐壷更衣の関連性をめぐって—　孫佩霞　284
- 近世中日の「士人」観
  —黄宗羲と横井小楠の比較を中心に—　陳毅立　李桐　289

- 中国における太宰文学の受容　李捷　297
- 『山椒魚』の成立と背景
  —井伏鱒二のスタートラインを読み取る—　李燕　303
- 堀文学における対照描写
  —『菜穂子』を中心に—　任海丹　309
- 『日本書紀』兼右本の重文号について
  —併せて「書紀区分論」を論ず—　劉培栄　315
- 桜木紫乃の『ホテルローヤル』における人物像をめぐって
  李潔　牟海晶　李芳　324
- 空海が唐や新羅人との交流について　仇雲波　330
- 遠藤文学における宗教多元主義の提出
  —『深い河』を中心に—　李鵬飛　337
- 横光利一『日輪』の主人公について　馬楽　344
- 向田邦子のフェミニズム精神について　牟海晶　李芳　李潔　351
- 『敦煌』の主人公趙行徳の人物像を巡る一考察　呉姍姍　357
- 現代日本女性文学の特徴　王昕　364
- 李良枝作品に見られる音と言葉の普遍性　金仁子　368
- 『伸子』における女性像　張彤　李旭光　375
- 川端作品の『山の音』における白の色相　蔣夢婷　380
- 『東亜普通読本』における増補人物　方光鋭　391
- 百人一首から見る日本人の季節感　殷春萍　398
- 「仙人」から見る芥川龍之介と近代中国　劉暁霞　406

日本文化・日本社会編

- 原爆被爆者証言の国際的継承に向けて
  —NET-GTAS の活動における現状と課題—　今井勇　414
- 山梨県における農業発展に関する一考察
  —「6 次産業化」の視点から—　韓暁宏　417

● 漢字圏・非漢字圏学習者混合クラスにおける日本語教育プログラムの実践と将来
菅陽子 424
● 日本における付加価値会計の現状と課題
—企業の報告書と制度変更及び統合報告について— 長濱照美 430
● 映像から見る中国の東北文化
—「満洲」映画『迎春花』の食文化を中心に— 林楽青 437
● 日本の医療制度からみる中国の一体化 李宣 周揚 444
● 中国と CLMV の経済関係 姚海峰 449
● 中日両国における裸体観への一考察
—民俗事象のモデルから— 高暁菲 460
● 日本語の外来語普及が日本社会に与えた影響 魏玉娟 楊赫 466
● 日本語における女性語に関する研究の調査 趙倩 472
● 在日中国人技能実習制生の現状と適応問題 劉瀾波 478
● 安部公房『箱男』研究
—都市空間における「権力」をめぐって— 解放 484
● 色鉛筆のネーミングにおけるカタカナ語の使用
—固有名詞を中心に— 魯章 490
● 中日貿易の現状と展望 金蓮花 496
● 中国企業の対外直接投資に関する一考察 唐茹麗 丁宁 502
● 中日企業における企業内教育についての比較研究
—中日企業社員への教育投資を中心に— 呉巧 512
● 日本における海信仰と海洋異界意識 李清玉 519
● 日本介護サービス業の海外進出の現状と問題点
—対中進出を例にして— 胡業倩 周揚 526
● メディア・フレームから見る「中国人観光客」のイメージ形成
—『毎日新聞』を例に— 陳賽 537
● 中日両国花文化への一感想
—牡丹と桜を例に— 高小超 544
● 中国の国際共同製作映画におけるソーシャル・キャピタルについて 周少丹 549

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

翻訳・日中対照言語学編

- 日中両言語における副詞の位置　高橋弥守彦　566
- 日中機械翻訳に見られる問題点
  —「イ形容詞・ナ形容詞＋ため（に）」を翻訳する場合—　李璠　張璐璐　574
- 琉漢言語接触について　詹瑋　582
- 中国語と日本語の談話における「ほめ」の対照研究
  —「ほめ」の表現に見られる配慮を中心に—　王欣　588
- 経済関係の二字日中同形語について　劉晶　李暁霞　597

基調講演編

源氏物語の国際化への歩み
—中国語・韓国語訳を中心に—

伊井春樹

0. はじめに

『源氏物語』が成立して千年以上となり、現在も日本では読者は途切れることなく続き、さまざまな媒体によって受容され続けて、新しい文化を生み出してもいる。その一つの顕著な例としては、2008年11月1日に「源氏物語千年紀」の記念式典が京都国際会議場で開かれ、世界各国から日本文学の研究者が集まり、翌2日から4日まで金剛能楽堂において研究集会が催された。この年には一年間全国各地で『源氏物語』の展示会から講演会、研究会、演奏会などの各種の催しが続き、翌年にはシンポジウム、講演会を中心とする443ページからなる報告書『源氏物語フォーラム集成』(A4版、2009年3月、角川学芸出版)がまとめられた。そこには世界各国から参加し研究発表をした人々の姿を見ることができ、古典文学の『源氏物語』をテーマにしてこれほどまでに人々が参加したというのは、前代未聞なことでもあろう。

海外においても『源氏物語』は日本の古典文学として知られるが、日本・中国・韓国語の翻訳の一端から、その状況を見ていくことにする。

1. 桐壺巻の日本の現代語訳

千年昔の作品は、現代の日本人でも容易に読めるわけではなく、ことばの解説や時代背景を知る必要がある。それも容易なことではないため、現代語訳を読むことになる。ただ近代以降の日本の現代語訳は、以下に記す、有名な作家の手による作品が知られるが、研究者の場合は原典に忠実すぎて、面白みに欠ける憾みもあり、単独で販売されても読者が購入しないという現実がある。

①与謝野晶子『新訳源氏物語』(1912～1913年　4巻　金尾文淵堂)

・『新新訳源氏物語』(1938～1939年　6巻　金尾文淵堂)

②谷崎潤一郎『潤一郎訳源氏物語』(1939～1941年　26巻　中央公論社)

・『新訳源氏物語』(1951～1954年　12巻　同)・『新々訳源氏物語』(1964～1965年　11巻　同)

③舟橋聖一『源氏物語』(1970～1976年　2巻(未完)　平凡社)

④円地文子『源氏物語』(1972～1973年　10巻　新潮社)

⑤田辺聖子『新源氏物語』(1978～1979年　5巻　新潮社)

⑥瀬戸内寂聴　『源氏物語』(2001～2002年　10巻　講談社)

それぞれがどのように現代語訳しているのか、一部の作品の「桐壺」巻冒頭だけを次に示しておく。

①与謝野晶子『新訳源氏物語』

何時の時代であつたか、帝の後宮に多くの妃嬪達があつた。この中に一人陛下の勝れた寵を受けて居る人がある。この人は極めて権門の出身と云ふのでもなく、また今の地位が後宮においてさまで高いものでもなかつた。多くの女性の嫉妬がこの人の身辺に集るのは云ふまでもない。この人よりも地位の高い人はもとより、それ以下の人の嫉妬は甚しいものであつたから、この人は苦しい、悲しい日を宮中で送つて居た。その上くよくよと物思ひばかりをする結果病身にさへなつた。陛下は二十になるやならずの青年である。恋のためには百官の非難も意に介せられない。いよいよ寵愛はこの人一人に集るさまである。この人は百方嫉視の中に陛下の愛一つをたよりにして生きて居る。この人の父は大納言であつたが、もう死んで居ない。残つて居る母親はものの分つたえらい人で、この女のために肩身の狭いことのないやうにと常に心掛けて居たが、時には後家の悲しさ、両親の揃つた家の女にくらべて心細い場合がないでもなかつた。この時の妃嬪の位は女御と云ひ、更衣と云ふのであつた。この人は更衣であるが住んで居る御殿の名によつて呼ばれるので、その時の桐壺の更衣と云ふのはこの人の呼名である。陛下と桐壺の更衣の間に一男子が生れた。美くしい玉のやうな皇子である。

傍線を引いた部分が原典には存在しなく、このように補わなければ理解できないのと、作者の創作によって読者に興味を駆り立てようとしたのでもあろう。ただすでに言われているように、最初の晶子訳は、原典を省略しながらも大胆な解釈を入れての訳というのが定評でもある。

②谷崎潤一郎『新訳源氏物語』

いつ頃の御代のことであつたか、女御や更衣が大勢祇候してをられる中に、非常に高貴な家柄の出と云ふのではないが、すぐれて御寵愛を蒙つていらつしやるお方があつた。…そのうちに、前世からのおん契も深かつたのであらうか、又となく清らかな、玉のやうな男御子までがお生れになつた。(新訳)

谷崎潤一郎『新々訳源氏物語』

何という帝の御代のことでしたか、女御や更衣が大勢伺候していました中に、たいして重い身分ではなくて、誰よりも時めいていた方がありました。……そのうちに、前世からのおん契が深かったのでしょうか、またとなく清らかな、玉のような男御子さえお生れになりました。

③舟橋聖一『源氏物語』

ある御門(帝)の御代のことだった。女御とか更衣とかいう名前のついている御妃たちが、大ぜいお仕え申し上げている中に、特別貴い御身分というのではないが、みんなよりも、図抜けて、寵を独り占めしているおひとりの更衣があった。……前世からの契りも深かったのか、世にまたとないほど清らかな、玉のような男御子が誕生あそばされた。

④円地文子『源氏物語』

いつの御代のことであったか、女御更衣たちが数多く御所にあがっていられる中に、さして高貴な身分というではなくて、帝の御寵愛を一身に鍾(あつ)めているひとがあった。……前世からの宿縁が格別深くあられたものであろう、この世のものとも思われぬほど美しい男御子をこの更衣はお生みになった。

受容史からとすれば、漫画、アニメ、映画、テレビ、舞台と多様に存する。ただ、それらは原典を忠実に復元するのではなく、読者や観客を意識し、興味深く改変し、時には大胆な省略もするなど、原典から大きく離れるのは仕方のないことではあろう。

2. 海外における『源氏物語』の受容

日本においては、当然のことながら長い享受の歴史があるとはいえ、海外での翻訳による読者への提供となると、130年余の歴史にしかすぎない。末松兼澄の1882年にロンドンで出版された17帖が嚆矢であり、後世に大きな影響を与えたのはアーサー・ウェイリー・Arthur David Waley(1889～1966年)の作品である。1926年から1928年に、6冊本の「The Tale of Genji」を翻訳する。当時日本では近代的な研究はなく、ウェイリーは17世紀の『湖月抄』を用い、作者の『紫式部日記』を徹底的に読み、そこから平安時代の女房の生活、心情の問題、同時代の清少納言や政治家藤原道長などのことを知ったという。

現代語訳も存在しない時代に、このような環境で『源氏物語』を自由に読解することができた能力の高さにあらためて驚嘆するが、ただウェイリーは現実の日本には関心がなく、日本語を駆使して話をすることもなく、11世紀の平安朝の世界に没頭し、そこから『源氏物語』を英文学作品へと昇華していったという。しかも54巻ではなく、鈴虫巻は必要ないと削除するなど、忠実な翻訳ではなかったとはいえ、訳文は香気ある世界を現出し、英語圏の読者たちに大きな影響を与えることになる。詩人的な天才による新たな源氏物語世界の創出であったと評価してもよく、あらためて〈翻訳〉とは何かを考えさせられる。忠実にことばを置き換えることが翻訳になるのか、文学作品になるとなおさら、そのことが問われてくる。いわば翻訳は、別の言語による作品の創造といってもよいであろう。

Waley訳は、その後版を重ね、90年以上経過するが、いまだに読まれ、影響を与えているのは、それがすでに古典と認められているともいえる。その後、全巻ではないが、イタリア語訳、ドイツ語訳が出版されるとはいえ、いずれもWaley訳から翻訳するというありさまで、それだけWaley訳の存在の大きさを示す。その後、英語による全訳は、アメリカ人のサイデンステッカー(Edward George Seidensticker)による、1976年版の2冊本があり、和歌も二行詩としてすべての原文を対象とする。Waley訳が出て50年後のことで、日本での注釈書や現代語訳も出されており、すっかり環境が異なっているのは確かである。源氏物語の翻訳のきっかけとなったのは、Waley訳の影響があるようで、この点はドナルド・キーン(Donald Keene)氏も同じで、そこから日本文学に進むようになったという話はよく知られているところである。

サイデンステッカー訳から25年後の2001年に、アメリカ人のロイヤル・タイラー(Royall Tyler)によって2冊本が出た。さらに昨年の2015年にデニス・ウォッシュバーン(Dennis

Washburn)訳が公開された。それぞれの意義については省略するが、このように英語圏の四人が次々と新しい『源氏物語』の翻訳を出し、過去の翻訳もすべて流通して現在も読まれている。この新しいウォッシュバーン訳については、ニューヨークのメルマガでも紹介されたようで、それぞれ出版会でも注目を浴びる結果だといえよう。

現在では、英語だけではなく、ドイツ、フランス、ロシア語などを含め、中国、韓国語はもちろん世界各国語で抄訳も含めて261件の翻訳があるとされ、その数の多さにはあらためて驚いてしまう。さらに翻訳だけではなく、研究論文となるとその数は膨大で、年々その数量は増えている状況にある。

3. 越境する源氏物語のことば

海外の翻訳については、韓国語と中国語との例だけを示す。

①韓国語訳

(1) 柳呈『源氏物語』(1975年　2冊　乙酉文化社)

(2) 田溶新『源氏物語』(1999年　NANAM出版)

(3) 朴光華訳(2015年、「桐壺」、図書出版香紙)

[1]키리쭈보노코우이(桐壺更衣)의 등장과 동료(同僚)의 질투　**어느 天皇(천황)의 시대이었던가, 많은 뇨우고(女御)·코우이(更衣)가 天皇에게 시중들고 있었던 속에서 그다지 높지 않은 신분(身分)으로, 두드러지게 天皇의 사랑을 받고 있는 분이 있었다。**

朴訳が韓国ではもっとも新しく、研究者だけに、かなり原文に忠実な内容である。

②中国語訳

(1) 豊子愷(1980年～1983年、人民文学出版社)1965年翻訳

中国訳は数が多く、日本以外ではもっとも多様に『源氏物語』の受容がなされている国だと思う。ただ研究者に聞くと、リストにされた本は、入手の困難な例も多いという。そのような中にあって、中国語訳でもっとも古く、現代でも広く知られているは豊子愷訳の存在であろう。人民文学出版社が『万葉集』の翻訳で知られる銭稲孫に依頼したものの、遅延と事故によって原稿を紛失、改めて1961年に豊子愷に翻訳の依頼をしたのだという。豊子愷は漫画家、随筆家、書家として知られ、その後の中国語訳に大きな影響を与えたとされる。『湖月抄』のほか、谷崎潤一郎、与謝野晶子、佐成謙太郎の現代語訳とともに、Arthur Waley訳も参照したという。巻名は、直訳、人名の読み替え、原典の踏襲という三つの方法を用いる。以下、翻訳の冒頭部だけを示しておく。

话说从前某一朝天皇時代，后宫妃嫔甚多，其中有一更衣，出身不十分高贵，却蒙皇上特别宠爱。……敢是宿世因缘吧，更衣生下了一个容华如玉、盖世无双的皇子。

(2) 殷志俊(1996年、遠方出版社)

且说天皇時代、某朝后宫妃嫔众多、内中有一更衣。出身微寒、却蒙皇上万般恩宠。另几个出身高贵的妃子、刚入宫时、便很是自命不凡、以为定然能蒙皇上加恩。……

豊子愷の訳に影響を強く受けており、注釈についても、注記することなくそのまま

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com